

2024年12月27日版  
ATENジャパン株式会社 技術部 技術サポート課

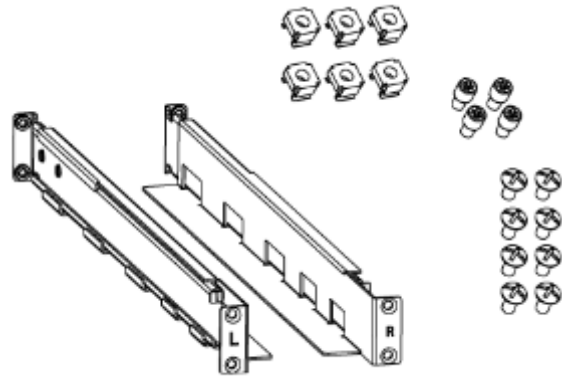
---

# OLシリーズ + SP100 セットアップガイド

---



# 内容物を確認する



ラックマウントレールは上のような形状です。ラックマウントのネジは同梱されていますが、強度など取り付けに関して指定がある場合はラックメーカーのネジをご利用ください。

## ■ UPS本体の同梱品

- UPS本体
- ラックマウントレールと金具
- 縦置きスタンド
- ネジ

## ■ 別売品

- SP100 (ネットワークカード)

## ■ ラック取り付け時の注意

過熱による劣化加速やその他事故を防ぐため、すべての通気口を塞がないようにし、本体並びに拡張バッテリーの上に物を置かないでください。

壁から少なくとも20cm離して設置してください。

## メモ

### ■ 同梱品の詳細は梱包箱に記載

- もし同梱品に不足がありましたら、お手数ですがATENのサポートまたは営業窓口へご連絡ください。

### ■ 設置場所の確認

- 通気性の良い場所を選ぶ
- 直射日光を避ける
- 周辺温度と湿度の確認
- 安定した平らな面に設置

UPSは充電やバッテリーモードで動作している時に発熱します。冷却できない場合は、バッテリー寿命を縮める原因となるほか、事故や火災のおそれとなります。UPS同士が直接接触する形で設置する場合は、風通しの良い場所にて冷却できる場所に設置してください。

同様に、加熱の原因となる直射日光や温度の高い場所、腐食性ガスが籠る場所、塩害が発生しやすいへ配置しないでください。

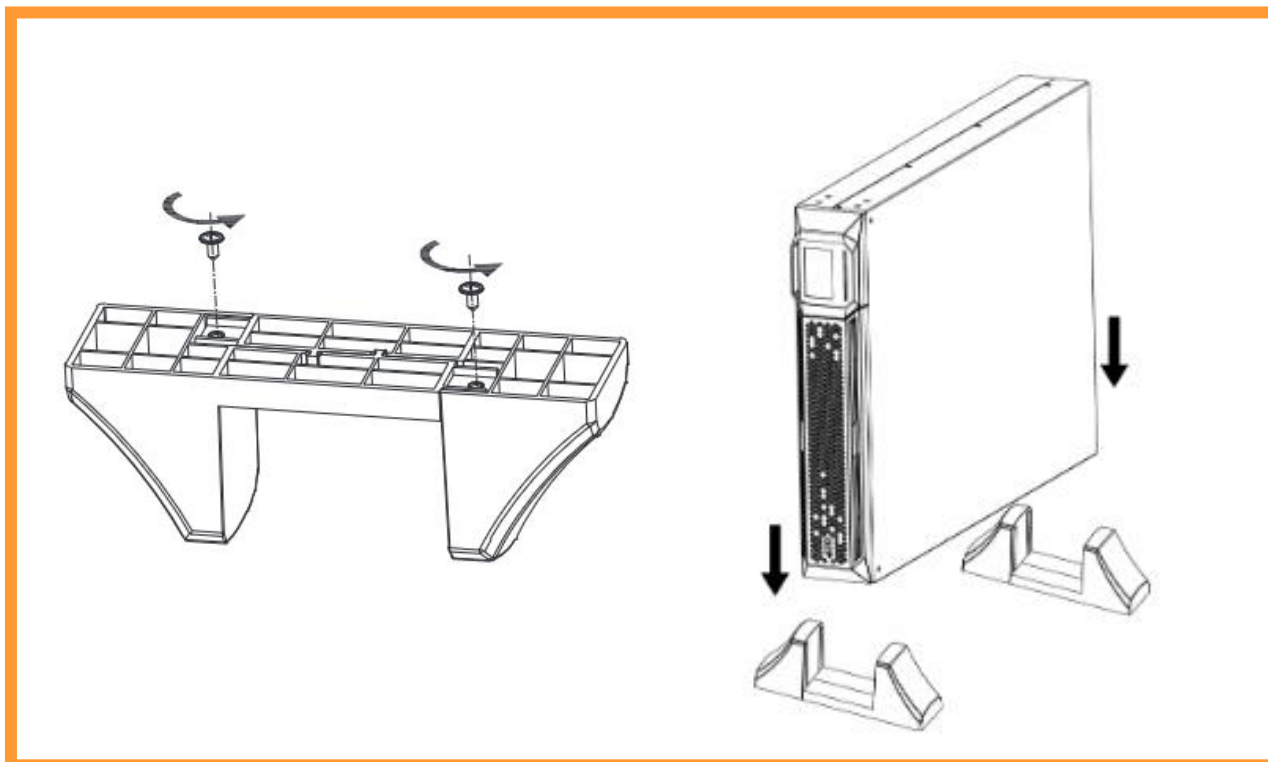
### ■ 作業者の安全確保が必要です

OL2000は約21kg、OL3000LVは約30kgと作業者によっては作業制限が適用されることがあります。また重量物であるため安全に対して十分に注意して作業を行ってください

(厚生労働省 職場の安全サイト)

[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/2018/sakuhin2/images/n336\\_1.pdf](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/2018/sakuhin2/images/n336_1.pdf)

# 縦置きスタンドの取り付け方法



## ■ 同梱のネジでスタンドを組み立てます

組み立てたスタンドを2つ用意したら、UPSを上から挿入して立てるようにします。スタンドをしっかりと装着し、UPSが安定して設置できるか確認してください。

UPSの向きは、上側に液晶パネルが来るようにして設置してください。拡張バッテリーを使用する場合は、UPSと同じ外観にそろえて配置してください。

壁から最低でも20cm以上離して設置してください。

拡張バッテリーには右図のように2つまとめて立てるためのスタンド用パーツとネジが同梱しています。UPS本体にはこの2台用パーツは同梱しておりませんためご了承ください。

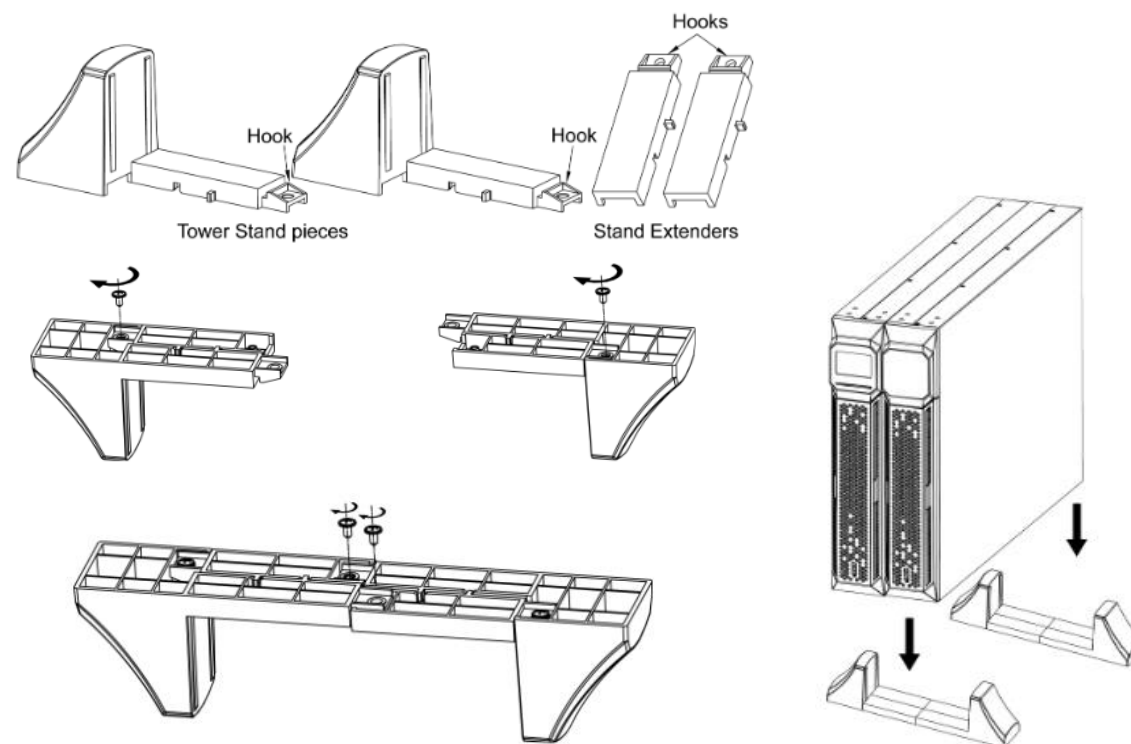
## メモ

### ※ 注意

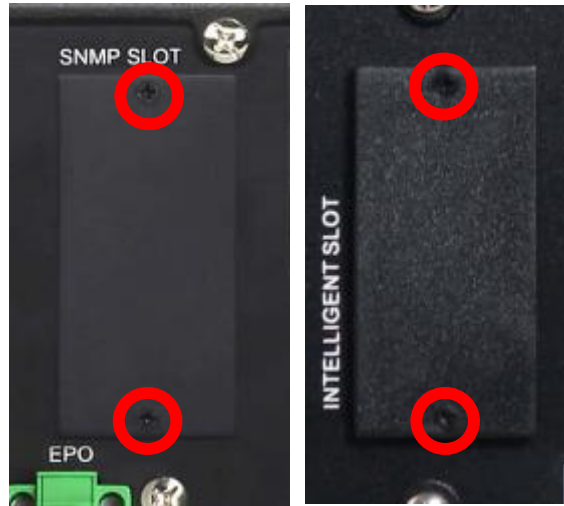
#### 縦置きスタンドは床面への固定機能はありません

スタンドには固定機能がなく、接続する機器の電源ケーブルの太さや敷設方法によっては固定が難しい場合がございます。その場合は別途、固定ベルトなどをご用意の上、床面などに固定してください。

## ■ UPSと拡張バッテリーを合わせて縦置きする方法




# ネットワークカード「SP100」を挿入する



## ■ 別売「SP100」のUPS本体への取り付け方法

本体背面の印刷は型番によって異なりますが作業内容は共通です。

本体背面の「SNMP SLOT」または「INTELLIGENT SLOT」のフタを0番ドライバーで外し、SP100を取り付けます。フタを固定していたネジでSP100を固定してください。

SP100を接続したら、LANケーブルで「」のマークのコネクタに接続してください。

カードの挿し込み向きはOL1000LV、OL1500LV、OL2000LV、OL3000LVすべてのモデルで共通です。

## メモ

### ※ 注意

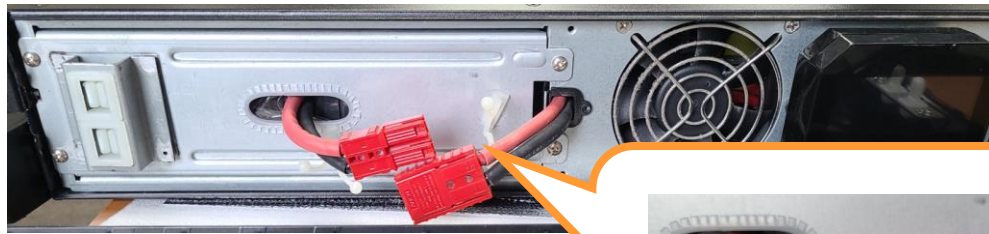
故障や異常でSP100を外す時は、UPSの電源を落としてから行ってください。UPS起動中で取り出すと故障の原因となります。

ネットワークカードの一時的に動作不良であれば、ブラウザ操作でネットワークカードのみ再起動ができます。

## ■ 取り付け完了イメージ



# バッテリーと本体を接続する



開梱時、事故防止のためにUPS本体とバッテリーのケーブルは外されています。

まずはUPSフロントパネルをまっすぐ引き、外します。赤丸の部分は内側に爪がある箇所となります。

コネクタを接続したら本体バッテリーの準備は完了しました。フロントパネルを再度取り付けてください。

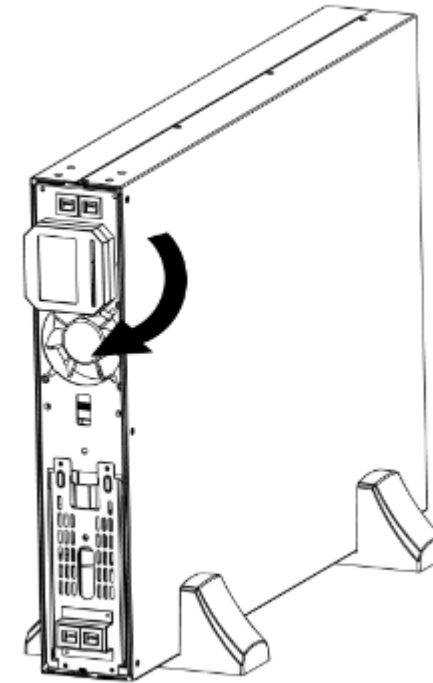
## ■ 使用したUPSを移設する場合

移設する時にはUPS本体のシャットダウンをした後にこのバッテリーケーブルを必ず外してください。取り付けたまの移設では火災や事故の原因となります。

## メモ

### ■ 縦置き用に液晶を回転させる

縦置き時には、液晶部分を時計回りにひねってご利用ください。



フロントパネルを戻す時、フロントパネルとケーブルが干渉してしまったり、づらいことがあります。この時はバッテリーケーブルを優しく、本体にある白色の結束具で2か所押さえ直してからだと、閉めやすくなります。

### ■ コネクタのひび割れに注意

コネクタは同じ色のケーブルをつなぐため、一方向でしか繋げないようになっています。もし、コネクタにひびが入っている場合は、無理に繋げず、すぐにコネクタが破損した側を交換してください。無理に繋げると事故や火災の原因となります。

# 拡張バッテリーとつなぐ(オプション)



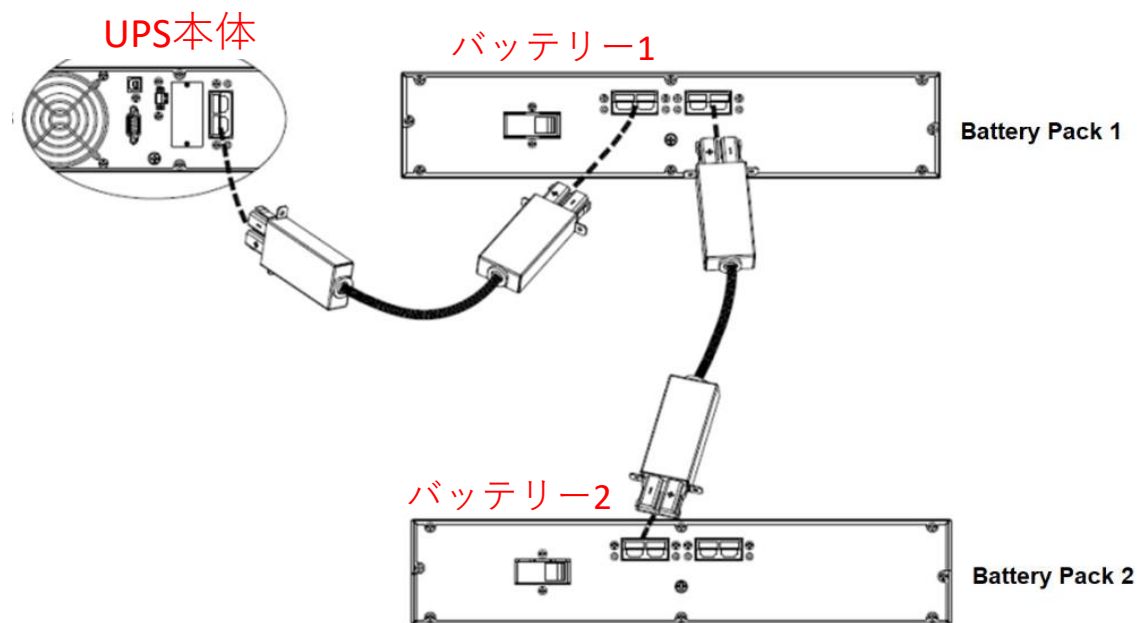
別売の拡張バッテリーの取り付け方法を紹介します。  
UPSの電源を落としてから増設してください。

- UPS本体と接続する電力ケーブルは、拡張バッテリーに同梱されています。このケーブルは1種類のみです。異なるケーブル長の取り扱いがないため、ご注意ください。
- 背面のフタを2番ドライバーで外します。
- 拡張バッテリーの背面にあるブレーカーをOFF(0と表示)側に落とします。
- 電力ケーブルを接続し、フタのネジで固定します。
- 拡張バッテリーの背面にあるブレーカーをON(1と表示)側に上げます。

## メモ

### 複数台の拡張バッテリーを追加する方法

UPS本体(親側)と繋ぐには「VDC INPUT」  
更にバッテリー(子側)同士を数珠つなぎにする時は下図を参考に、  
「VDC OUTPUT」から接続してください



# 電源ケーブル類を繋ぐ



UPSへ給電



異常がなければ  
機器をUPSに接続

**初回の動作確認では、UPSだけを給電してください。**

## ■ UPSは約3時間の充電で95%まで回復します

100%まで充電するならUPS本体だけなら約12時間、拡張バッテリーを増設している場合は約24時間掛かります。これはバッテリー寿命を減らさないよう、意図的に時間を掛けて充電する機能が働くためです。

後半のページにある設定をしてから、UPSをオンラインモードに立ち上げてください。立ち上げる時にテストモードが実行されますが、エラーコードが発生しなかったら、バッテリーが正常品と確認され、動作を開始します。

オンラインモードになったら、サーバーや装置などを接続してください。

## メモ

### ※ 結露注意

#### 移動後はすぐに電源を入れない

涼しい場所から乾燥した暖かい場所へなどUPS本体を移動させた時は、約2時間ほど待って周囲温度と本体をなじませてからお使いください。低い気温の環境にて起動させた場合、UPSの起動で結露が発生し、本体故障や機能劣化、異常動作を引き起こすおそれがあります。

#### ■ 給電前のチェック・外観点検

UPS本体や各ケーブル類に損傷（亀裂、変形、断線など）がないかを必ず確認してください。

#### ■ 接地・配線の確認

UPSは必ず正しく接地されたコンセントへ接続してください。また、入力・出力ケーブルが正しく配線されているか、定格電圧・電流に適合しているかを確認します。

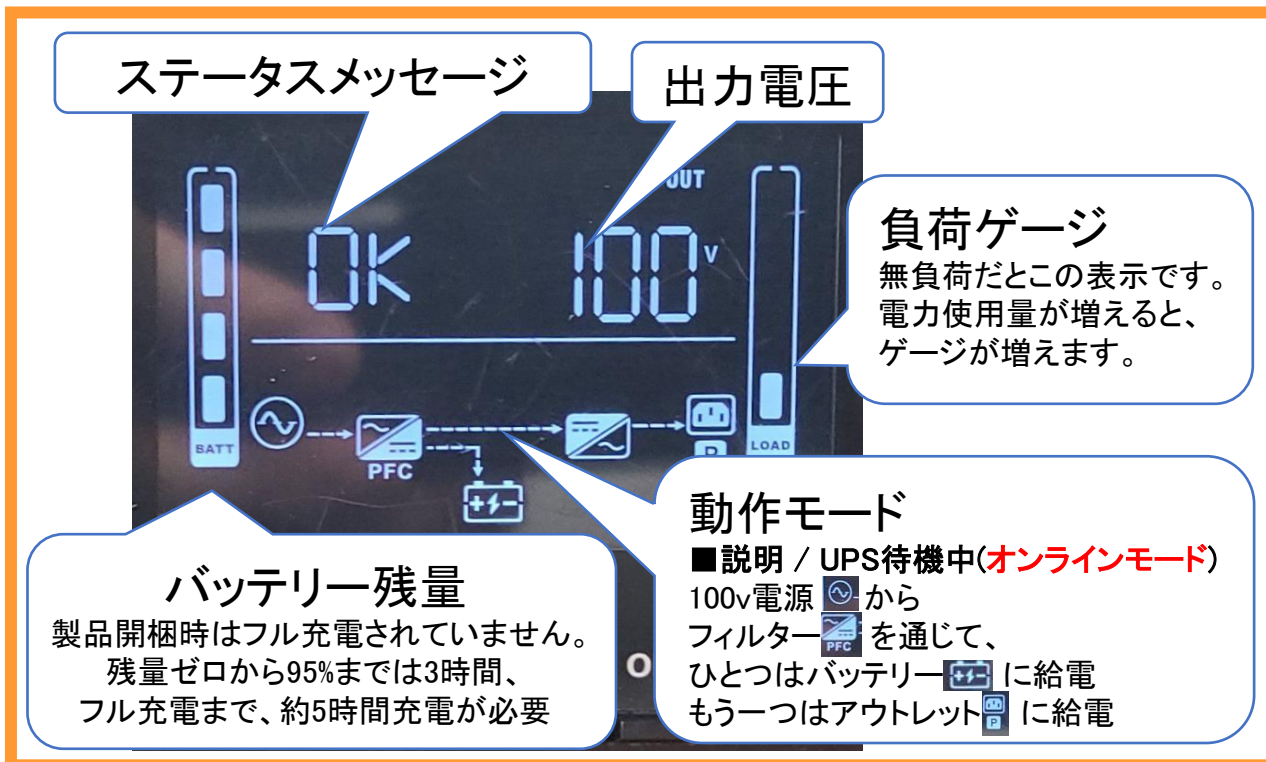
#### ■ バッテリー状態の確認

長期間使用せずに保管していた場合は本体バッテリーを取り出して、液漏れや端子腐食がないか確認してください。また、必要に応じてバッテリー初期充電が行われているかもチェックします。OLシリーズ95%までの充電で約3時間掛かります。

#### ■ 負荷機器の確認

UPSに接続する機器の合計消費電力がUPSの定格出力を超えていないか、また接続機器がUPS対応機器であるかを確認してください。安全の目安としては、最大負荷が50%～ディレーティング定格までです。

# 液晶画面の情報について



## ■ 常時表示

UPSに電源が入ると常時、この画面で動作モードを確認できるようになります。バックライトは消せません。

## ■ オンラインモードとは?

上図は、本番モードである「オンラインモード」を示しています。このモードは平常時、バッテリーに充電しつつアウトレットにも給電します。コンセントからの給電が止まるとバッテリー給電に切り替わる、というモードになります。

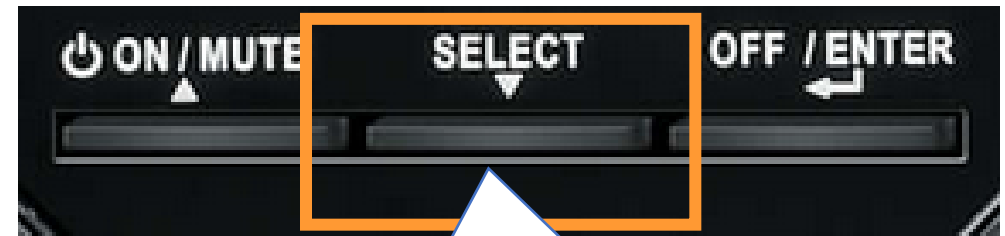
本体の設定変更はアウトレットに給電していない時だけ可能です。このオンラインモードでは本体設定を変えることはできません。

## メモ

### • SELECTボタンでステータス確認

#### UPS本体の状態確認をするには

SELECTモードを短秒押しをすると入力電圧、周波数、バッテリー残量などUPSの状態を確認できます。



知りたい情報を切り替えるなら  
**SELECT 短押し!**

左図なら、出力電圧の箇所が変わって、商用電源の電圧や周波数などの情報を切り替えて表示します。

# 動作モード: オフラインモード



## ■ 電源投入直後のモード

上図の枠の表示パターンがオフラインモードとなります。  
他社製品では、「スタンバイモード」と呼ばれることもございます。  
家電のスタンバイモードと同じで主電源が入っているが充電しているもの、アウトレットへ給電していない状態です。

**このモードの時だけ、UPS本体の設定を変更できます。**

このモードはバッテリーだけに充電しているモードです。

UPSのアウトレットからは給電しません。

アウトレットから給電開始するには、「ON/MUTE」ボタンを長押ししてオンラインモードに切り替えてください。

このモードでは、SELECTボタンを短押しするとUPSのバッテリー情報などを調べることができます。

## メモ

### ■ 本体設定モードに入る

液晶下の「SELECT」ボタンを3秒長押し

### ■ オンラインモードにする

液晶下の「ON/MUTE」ボタンを2秒長押し

### ■ 電源を落とす

**このモードでUPSをコンセントから外す**

スタンバイモードで商用電源からコンセントを抜くと下のように表示されてしばらくすると電源がOFFになります。  
UPSを交換したり、移設する時にはこの方法でUPS本体の電源を落としてください。

**Sd :**

シャットダウンの意味



# 動作モード: オンラインモード



## ■ 別名: 本番モード

アウトレットに給電しているモードです。もし、UPSへの給電が停止したらUPSのバッテリーで機器に電力を供給します。

このモードの時には右ページの操作が可能です。

オンラインモードの状態では本体の設定変更はできません。そのため、一度オフラインモードにしてから設定変更をしてください。

また、バッテリーの経年劣化などで交換する場合は、バイパスモードに変更してから交換を行ってください。

## メモ

### ■ アウトレットへの給電を止める

「OFF/ENTER」 ボタンを2秒長押し

「OFF/ENTER」 ボタンの長押しで、UPSを止めてオンラインモードにします。UPS本体の設定はオフラインでのみできます。オンラインモードではメニューを呼び出せません。

### ■ バイパスモードにする

「ON/MUTE」 + 「SELECT」 を同時に3秒長押し

バイパスモードとは、UPSを経由しないで直接電気を供給するモードです。このモードはUPS本体を起動したまま内蔵バッテリーを交換をする時に使用します。

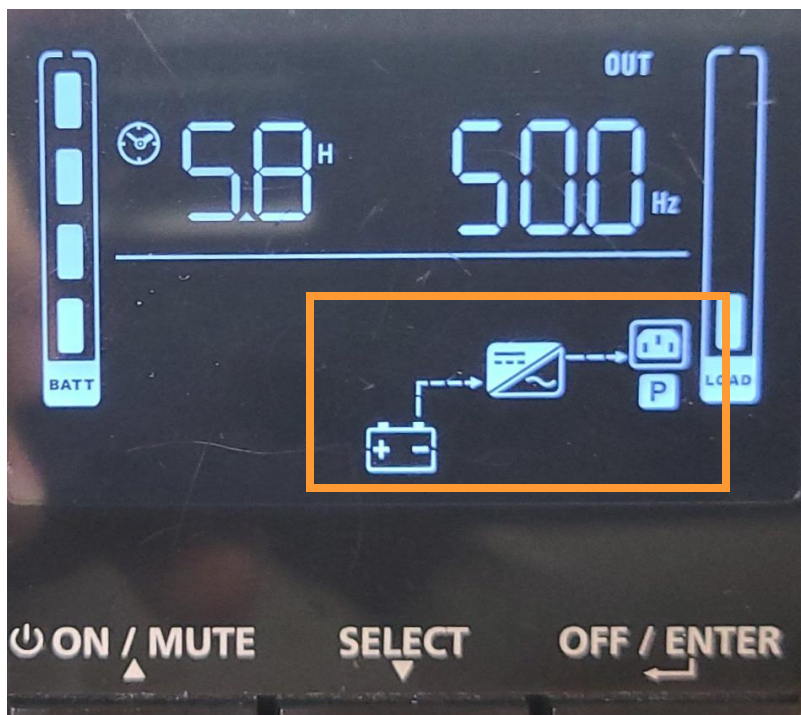
もし、UPSの入力電圧が出力と一致していないとバイパスモードになりません。この場合は、一度オフラインモードにしてから設定を確認してください。

### ■ バッテリーテストをする

「ON/MUTE」 ボタンを3秒長押し

「OK」と表示したら正常、エラーコードが表示されたら、エラーに併せて設定変更や状況確認をしてください。

# 動作モード: バッテリーモード



## ■ バッテリーから給電しています

商用電源が給電できなくなるとバッテリーから給電へと切り替わる、このモードになります。SELECTを押して残り時間などを確認できます。

## メモ

### ■ 警告音を止める

#### 液晶下の「ON/MUTE」ボタンを3秒長押し

ただし、再度バッテリーモードになれば警告音は発報します。また、本体エラーがあった場合は警告音を停止できません。

ブラウザからも「Parameters setting」にある「Alarm at battery mode」をDisableに設定すると止められます。

### ■ UPS本体の電源を落とす

#### 液晶下の「OFF/ENTER」ボタンを2秒長押し

緊急措置でUPSの電源を落とす場合は、この操作で電源を落とすことができます。アウトレットへの給電を止めた数秒後にUPS本体もシャットダウンします。

### ■ オンラインモードに戻る

#### UPSに給電する。給電電圧を確認する。

バッテリーモードで動作している場合、UPSへの給電が出来ないことを意味します。運用設定した時点と異なる電圧で再給電しているため給電が出来ていないと判断されている、と言い換えることもできます。電源系統の電圧降下などでも安定した給電が出来ていないというケースもございますため、給電の電圧をご確認ください。

# 動作モード: バイパスモード



## ■ 商用電源を直接アウトレットに給電するモード

### ■ 自動でこのモードになったら

UPSへの過負荷が発生しています。 UPSに接続している機器を外して負荷を減らすなどしてください。ただし、手動で設定している場合はどちらかの方法でオンラインモードに戻せます。

#### ■ 「ON/MUTE」を長押しするとオンラインモードになる

→ 6番設定が**有効**になっています。常時通電を優先する設定になっています。

#### ■ 「ON/MUTE」 + 「SELECT」同時長押しするとオンラインモードになる

→ 6番設定が**無効**になっています。常時通電しないよう設定しています。

## メモ

### ■ 注意

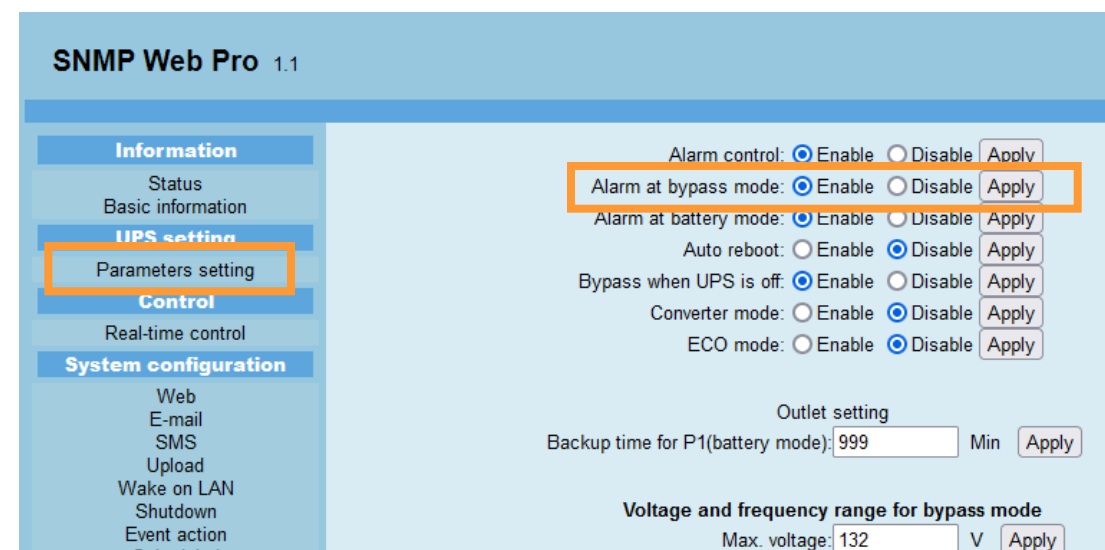
このモードで商用電源からの給電が止まるとアウトレットの給電も止まります!!

### ■ 警告音を止める方法

#### ネットワークからの設定でのみ止められます

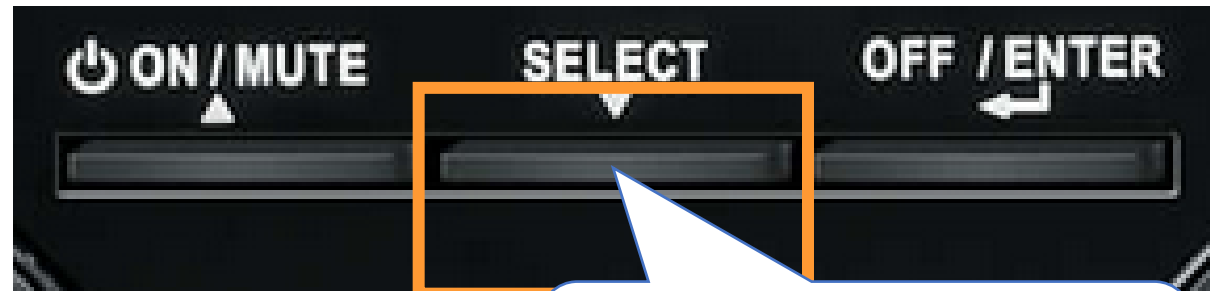
バイパスモードを使用すると初期設定では、モードをお知らせするために10秒に1度、ピーツと鳴ります。本体操作では停止できません。

この音を止めたい場合は、ブラウザから以下の設定で、止められます。



1. 左メニューの「Parameters setting」をクリックします。
2. 「Alarm at bypass mode」にてDisableを選択し、右隣の「Apply」をクリックします。

# UPSの本体設定を変更する



本体設定するには  
**3秒 長押し!**

## ■ 本体設定をするための条件

- ・ オフラインモード
- ・ バイパスモード

のどちらかでのみ、本体設定ができます。

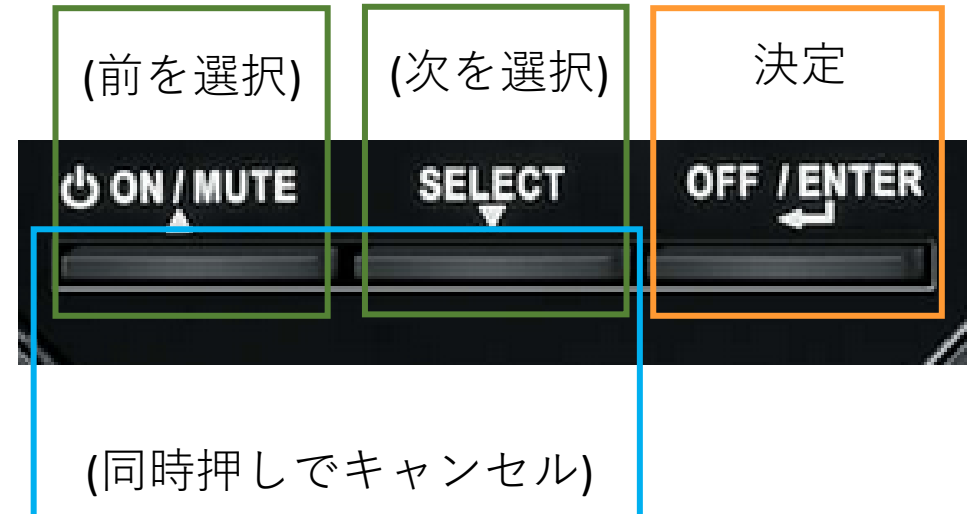
- ・ オンラインモード
- ・ バッテリーモード

では本体設定はできません。

設定項目を選んで、各項目をボタンで選んで決定する、という使い方となります。

## メモ

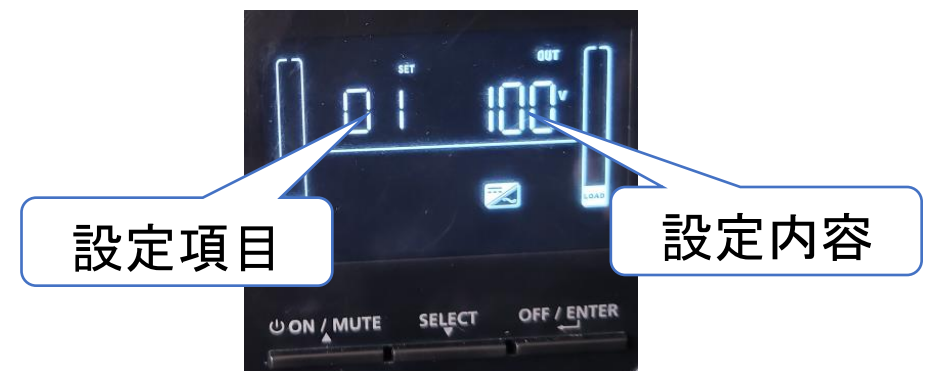
### ■ 本体設定時のボタン動作



一定時間、無操作が続くと設定モードが自動的にキャンセルされます。

設定はこのガイドでは抜粋しているため、詳細を確認される方は製品マニュアルをご参照ください。

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/OL1000LV>



# UPSの本体設定 1番:出力電圧設定



## ■ 設定01 : 出力電圧の設定

- 初期設定では120vです
- 実動作させる前には、  
必ず100vに設定してご利用ください

## メモ

### ■ UPS本体は以下電圧に対応

日本国内では100vのみサポートします

- 100v
- 110v
- 115v
- 120v (初期設定)
- 125v
- 127v

電気事業法施行規則第38条では、100v電圧では101vから上下6ボルト以内とするように定められています。(つまり、95Vから107vまでに収めている必要があります)

ATEN製UPSは100v環境でのみサポートをしております。他の電圧での動作をさせる場合はユーザー様の判断にてご利用ください。

# UPSの本体設定 6番: 常時通電させる?



## ■ 設定6番は、常時アウトレットへの給電機能をするか設定します。

初期設定では、スタンバイモードになるよう設定されています。オンラインモードに入ると「OFF/ENTER」ボタンを長押しすると、スタンバイモードになり給電が停止されます。

しかし、この設定をENA(有効)にすると、オンラインモード⇔バイパスモードの切り替えとなり、常にアウトレットへ給電されるようになります。

初期設定ではDIS(無効)に設定されています。  
使用する場合はENA(有効)に設定してください。

「常に電源を給電したい」ならON、  
「緊急時に電源を落として二次災害を防ぎたい」  
ならOFF、と用途に分けて設定してください

## メモ

### ■ 設定の利用ポイント

#### 用途は何かを確認しましょう!

以下のシステム要件があった場合は有効にしてください

- 機器には出来る限り常に給電している状態にしたい
- UPSに電源を遮断させる機能を搭載させたくない

初期設定ではスタンバイモードを使用しますが、このスタンバイモードに入らせたくない用途であれば、ON(ENA: enable: 有効)にすることでシステム要件に合わせるすることができます。

逆に無効のままにするポイントとしては、

- 緊急時、安全上の理由で商用電源から遮断する必要がある
- UPSから電源を遮断させる手段を残しておきたい

などの用途であれば、OFF(dIS: disable: 無効)のままご利用ください。

# UPSの本体設定 7番:バイパスモードの電圧設定



## ■ 電圧の上限/下限を設定

バイパスモード使用時だけ設定してください

バイパスモードで動作する時に、商用電源から受け付ける電圧の範囲を指定します。

**HLS** : 上限電圧 (初期設定 : 132v / 120 ~ 140v)

**LLS** : 下限電圧 (初期設定 : 85v / 85 ~ 114v)

メモ

## ※ 注意

この設定は、サージ(突入電流)保護や瞬停に対してのバッテリー動作のしきい値設定ではありません。

この設定では、LLSのみ95vに設定しておくことで、日本国内で電気事業法に沿った設定でご利用いただけます。

HLSについては、特定の用途が無い限りは設定不要です。

# UPSの本体設定 8番:バイパスモードの周波数設定



メモ

## ■ 設定について

日本国内では、標準周波数に対する調整目標範囲は $\pm 0.2\text{Hz} \sim \pm 0.3\text{Hz}$ となっています。

そのため、商用電源の環境にて供給電源の品質を調べるという方法としては、東日本なら「51Hz - 49Hz」、西日本なら「61Hz - 59Hz」という設定をすることで、商用電源の品質を監視するという使い方もできます。

この項目は初期設定から変更する必要はありませんが、UPS周辺に設置されている機器のノイズが商用電源に混入していないか調査するひとつの手段、という使い方も可能です。

## ■ 周波数の上限/下限を設定

### バイパスモード使用時だけ設定してください

バイパスモードで動作する時に、商用電源から受け付ける周波数の範囲を指定します。

### ■ 東日本(50Hz周波数地域)

HLS: 上限周波数 (初期設定: 53Hz / 51 ~ 55Hz)

LLS: 下限周波数 (初期設定: 47Hz / 45 ~ 49Hz)

### ■ 西日本(50Hz周波数地域)

HLS: 上限周波数 (初期設定: 63Hz / 61 ~ 65Hz)

LLS: 下限周波数 (初期設定: 57Hz / 55 ~ 59Hz)

# UPSの本体設定 12番: バッテリーのVA設定



## ■ 設定12番はVA(皮相電力)を指定

### 拡張バッテリーを増設したら設定してください

拡張バッテリーを増設されたら、この容量を設定してください。適切ではない設定時間をした場合は、稼働時間の計算が想定と実際の数値が大幅に違う原因となります。

## メモ

構成	設定値
本体のみ	9
本体 + 拡張バッテリー x1個	25
本体 + 拡張バッテリー x2個	43

- さらに多く増設される場合は製品マニュアルをご参照ください

# UPSの本体設定 13番:充電アンペア設定



## ■ 適切な充電時間にするために

### 拡張バッテリーを増設した時に設定してください

設定しない場合は、充電時間が長くなる原因となります。  
設定よりも大きい数値にして過剰な電圧を設定しても充電時間は短縮しません。寿命を早める原因となるほか、異常な加熱などによって事故を引き起こす要因となります。

また、UPS本体は95%以上の充電をする時、バッテリーの寿命を減らさないようゆっくりと充電させる機能が発動します。拡張バッテリーを増設した場合で100%の充電をさせる場合は約24時間～の充電時間を設けてご利用ください。

## メモ

構成	設定値
本体のみ	2
本体 + 拡張バッテリー x1個	4
本体 + 拡張バッテリー x2個	6

- さらに多く増設される場合は製品マニュアルをご参照ください

# テストモードで動作確認する



## ■ テストモードの実施方法

### オンラインモード、オンラインモードにて「ON/MUTE」を長押し

テストモードとは、手動で10秒バッテリーモードで動作させて異常がないかテストします。もしも異常があった場合はすぐにテストモードに入る前のモードに戻ります。

オフラインからオンラインモードに立ち上げる時には、必ずテストをしてからオンラインモードになります。テストをせずにオンラインに切り替える方法はありません。

## メモ

### ■ テストモードで分かること

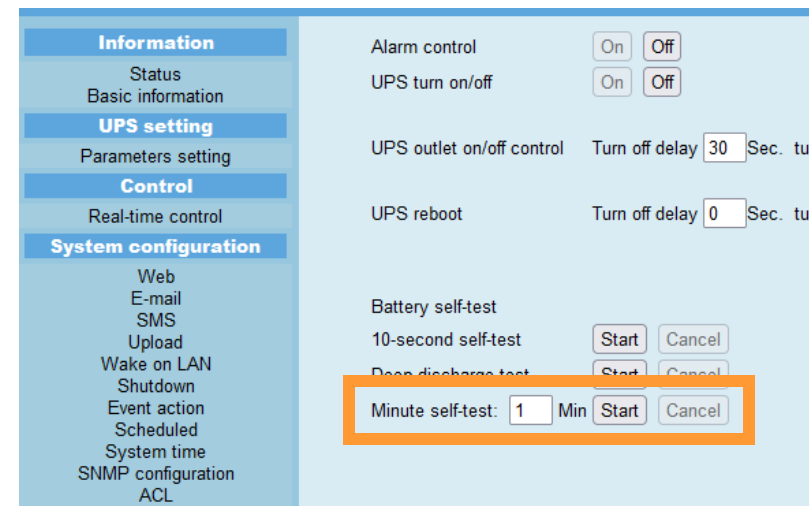
- バッテリーの異常がないか?
- 本体設定の異常がないか?

テストモードではバッテリー異常の確認ができるほか、UPS本体に適切な設定がされない場合もエラーコードが表示されます。またUPSの性能を超えるような過負荷があった場合も、エラーコードを表示します。

### ■ WEBで詳細テストが可能

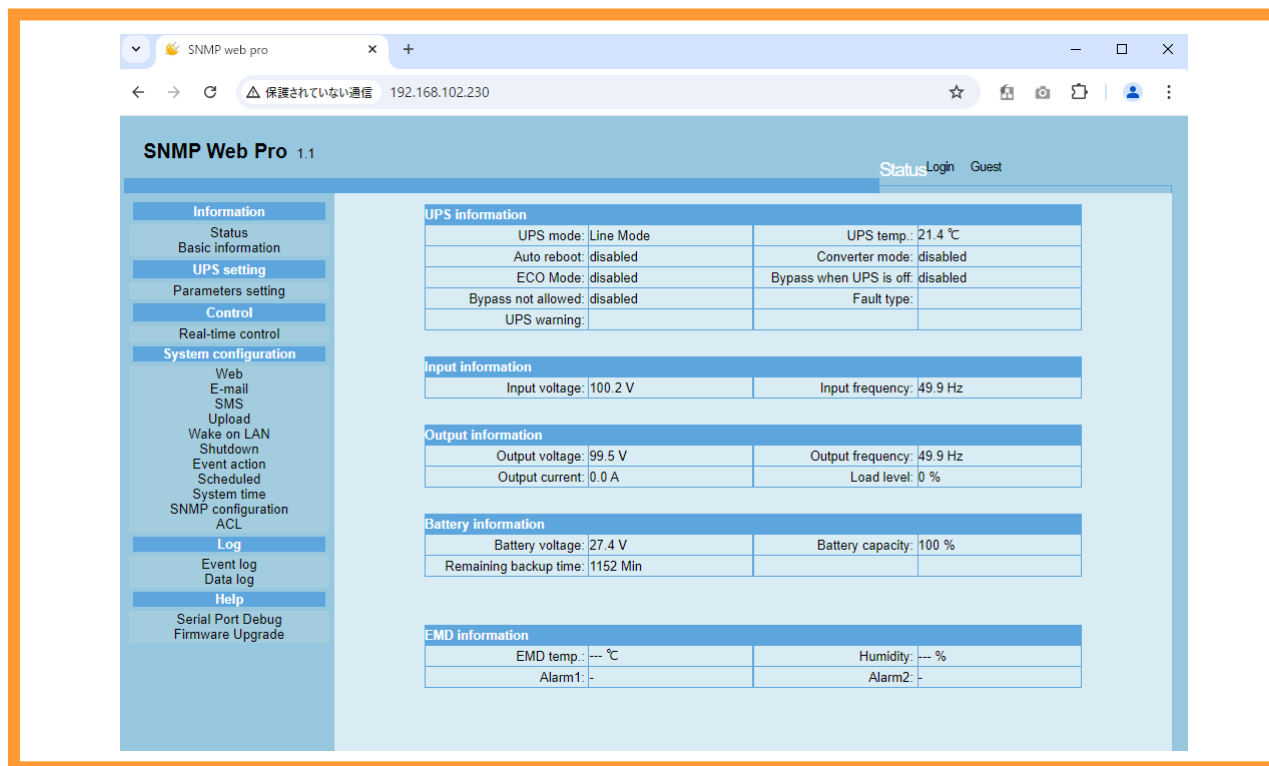
#### テスト時間の設定が可能

webの設定からテスト時間を設定し、1分単位で指定した時間稼働できるかのテストもできます。



「Real-time control」にある「Minute self-test」から実行できます。

# ネットワークでアクセスする



## ■ UPSとPCを直接つなぐ

### LANケーブルでPCと直結してアクセスする

ATEN UPSは1台のPCとLANケーブルと接続してご利用いただけます。

Microsoft Edgeなどで以下IPアドレスを入力してアクセスします。状況によっていずれかのアドレスになっています。

- 192.168.0.10 / 255.255.255.0
- 192.168.102.230 / 255.255.255.0
- (手動で設定したIPアドレス)

## メモ

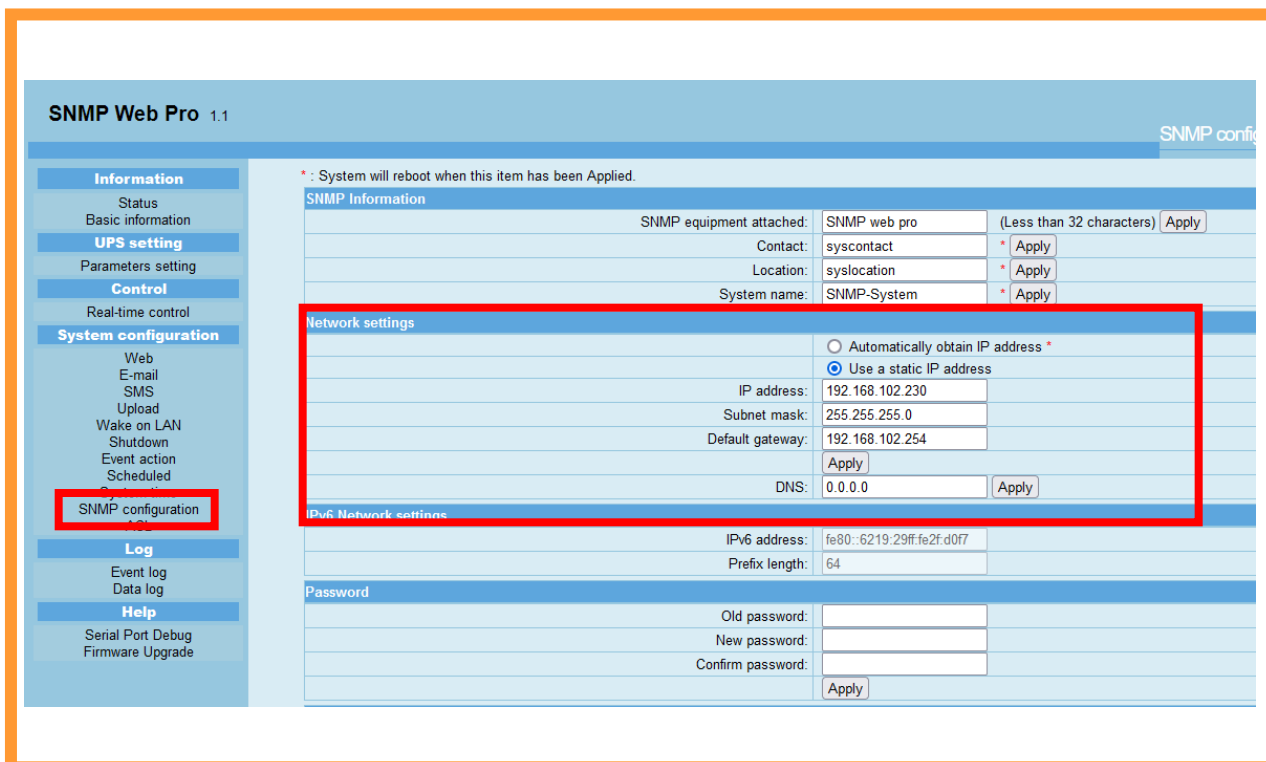
### ■ 確認できる情報

- 入力電圧・出力電圧
- バッテリー情報
- 本体シリアル番号 など

ブラウザからは本体ボタン操作以上の情報を調べられるほか、設定ができるようになります。

故障やサポートの問い合わせにてこれらの情報を提示されることがございます。スクリーンショットを保存しておくなど、記録をされることをおすすめします。

# IPアドレスを変更する



## ■ IPアドレス変更手順

1. 左メニュー「SNMP configuration」をクリック
2. 画面中央の「Network settings」でIPアドレスを変更する
3. 「Default gateway」下にある「Apply」をクリックする

## ■ 設定画面の初期パスワード

12345678

## ■ IPアドレス初期化の注意点

### リセット後のIPアドレス

192.168.108.230

※  
工場出荷時設定では、「192.168.0.10」と設定されますが、リセットをすると「192.168.102.230/255.255.255.0」へ設定されます。

# メール通知機能を設定する

SNMP Web Pro 1.1

E-mail Login Guest

**Information**

Status  
Basic information

**UPS setting**

Parameters setting

**Control**

Real-time control

**System configuration**

Web  
E-mail  
SMS  
Upload  
Wake on LAN  
Shutdown  
Event action  
Scheduled  
System time  
SNMP configuration  
ACL

**Log**

Event log  
Data log

**Help**

Serial Port Debug  
Firmware Upgrade

SMTP server: smtp.test.com

Security Type:  None  SSL  TLS

Port: 465

Send from: \_\_\_\_\_

User name: test

Need Auth

Password: \_\_\_\_\_

Note: After apply, you can click "Test" button to send a test message.

Apply Test

Receive 1: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 2: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 3: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 4: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 5: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 6: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 7: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Receive 8: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Password get back Email: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Recipient's Email Address (for Daily Report)

Account 1: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Account 2: \_\_\_\_\_ Apply Delete

Send Email for Daily Report (hh:mm):  at 00:00

Send Email when Event Log overflows (30M):

Send Email when Data Log overflows (30M):

Apply

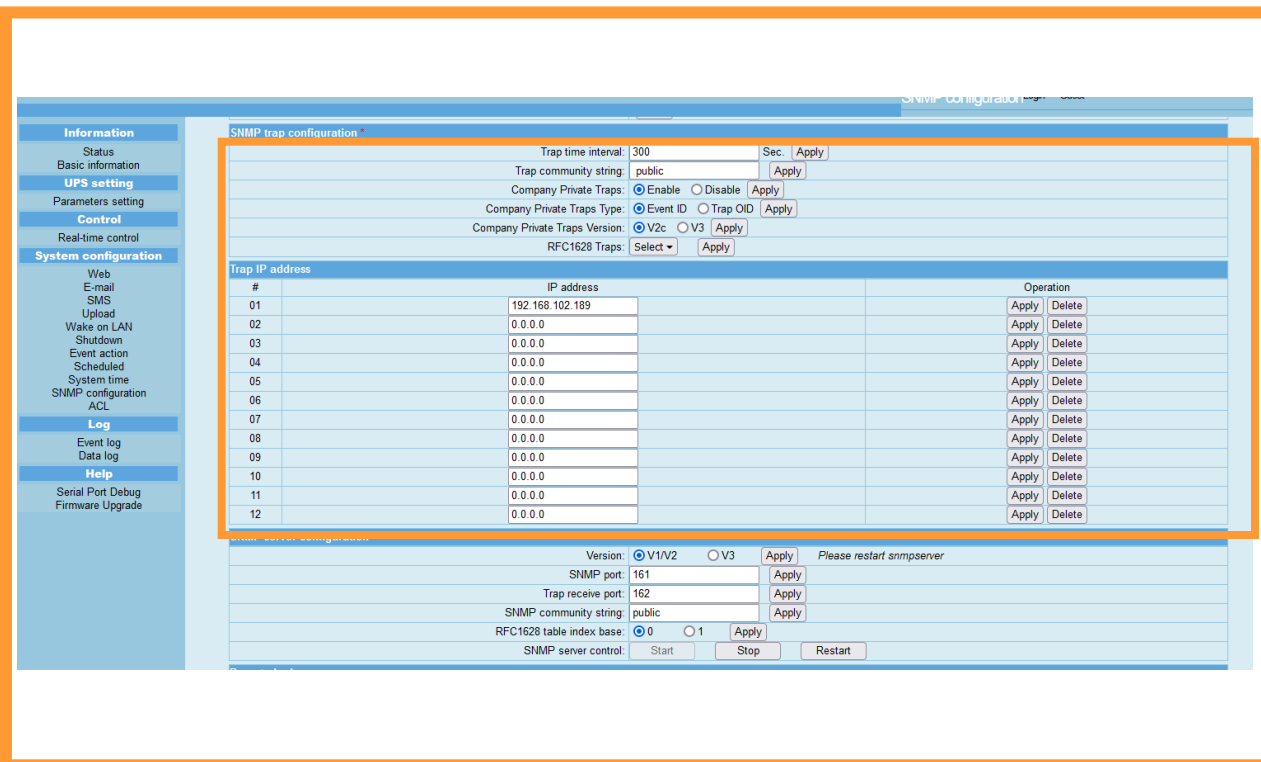
## ■ 各項目説明

- **SMTP server** : メールサーバーアドレス
- **Port** : メール送信のポート番号
- **Send from** : 送信メールの名義
- **Need Auth** : パスワードが必要ならチェック
- **Password** : メール送信パスワード
  
- **Receive 1~8** : 送付メールの宛先
  
- **Recipient's Email Address** : 日報メールの宛先設定

## ■ IPアドレス変更手順

1. 左メニュー「E-mail」をクリック
2. 画面中央にて各項目を設定し、各項目の近くにある「Apply」をクリックすると設定が保存されます。

# SNMP Trapを設定する



## ■ IPアドレス変更手順

1. 左メニュー「SNMP configuration」をクリック
2. 画面中央の「Network settings」でIPアドレスを変更する
3. Trapメッセージの設定は「SNMP trap configuration」と「TRAP IP Address」を設定して、「Apply」をクリックする

## ■ 設定項目について

### SNMP trap configuration

コミュニティやバージョンの設定をします。

### TRAP IP Address

SNMP Trapメッセージを送る先のIPアドレスを指定します。

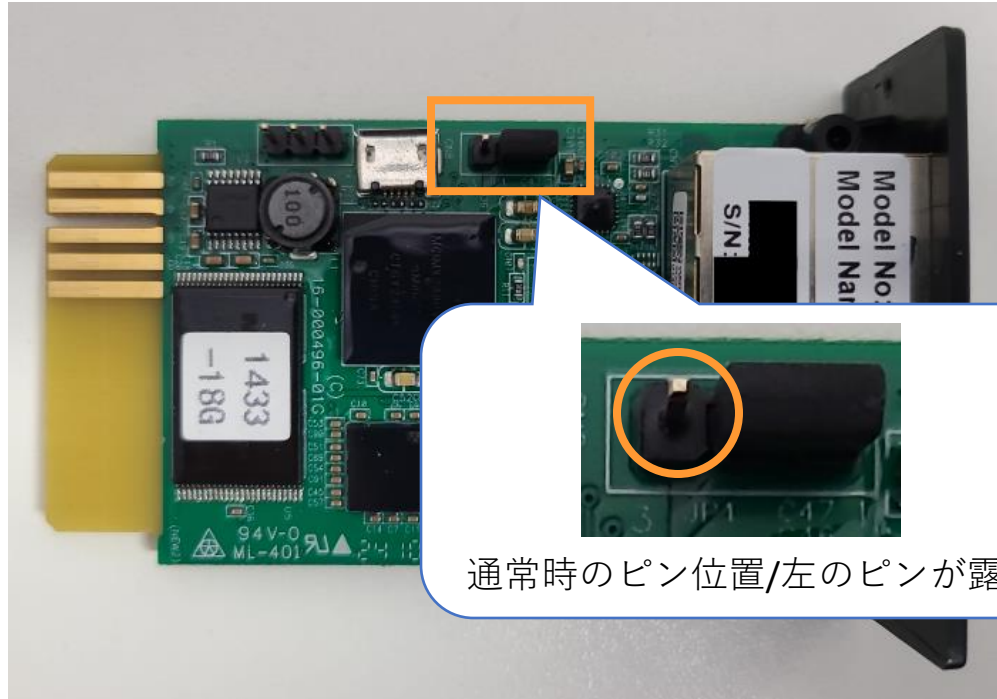
## ■ 備考

### SNMP server configuration

こちらはSNMPマネージメントソフトでUPSのデータを収集、監視する時に設定します。こちらの機能を使用する時のMIBファイルについては、SP100の製品ページからダウンロードしてください。

<https://www.aten.com/jp/ja/products/modelno/SP100>

# SP100を初期化する



通常時のピン位置/左のピンが露出

## ■ 初期化する時のピン位置

拡張カードSP100を取り外したら、ピンを差し替えて、一度通電させることで初期化できます。



初期化させる時にはこのピン位置へ

## メモ

### 初期化方法

#### 間違った設定をすべて消したい時に

IPアドレスやパスワードを忘れた時などは、初期化による復旧をお試しください。

#### 手順

1. UPS本体をシャットダウンする
2. コンクリートの地面や壁に触れるなどで静電気を逃がす
3. SP100をUPS本体背面から取り出す
4. ジャンパーピンを外し、初期化の位置に付けかえる
5. SP100を本体に挿入する
6. 電源を入れる
7. 約2分ほど待つ
8. UPS本体をシャットダウンする
9. SP100を本体背面から取り出す
10. ジャンパーピンを元の位置にもどす
11. SP100を本体に挿入する

初期化後のIPアドレスは「**192.168.102.230 / 255.255.255.0**」です。  
初期化後のパスワードは「**12345678**」です。

# 本体バッテリーを交換する（要注意）



**【重要】 UPS起動中の本体バッテリー交換は非常に危険な作業です。電気工事に知見のある方でも十分な対策が出来ない、安全確保できないと判断された場合はUPS電源を止めてから作業をしてください。**

本体自体はホットスワップに対応していますが、いかなる環境での交換作業の安全性を保障するものではありません。

交換の際には活線の端子が露出するため、可燃性ガスの近くや粉塵、ホコリのある場所では発火や爆発のおそれがあります。特にコネクタの抜き差しは火花放電が発生するケースもございます。

そのため、電気の取り扱いに関しての知見が無い方はUPSの起動中にバッテリー交換作業は行わず、UPSの主電源を落としてから行ってください。

## メモ

**以下は有資格者の方向けの手順となります。**

### ■ 交換手順

- バイパスモードを禁止している場合は設定で解除します
- オンラインモードで「ON/MUTE」+「SELECT」を同時に3秒以上長押し、バイパスモードに切り替えます
- フロントパネルを外します
- バッテリーの結線を外します
- ドライバを使って固定ネジを外し、古いバッテリーを取り外します
- 新しいバッテリーを装填したら、ネジで固定します
- バッテリーケーブルを結線します
- フロントパネルを取り付けます

### ■ 注意点

- もしバイパスモードに切り替え出来ない場合は、十分に安全対策をしてからの交換作業を検討してください。
- また実際の環境を確認し安全確保が出来ないと判断された場合は、安全を優先し無理に交換作業を行わないでください。
- 重要な機器のバックアップを行ってから交換作業をされることを推奨します。
- 電気工事士などの資格を所持していない方が交換作業するとなった場合は、接続している機器とUPSの主電源を落としてから交換するように指示してください。

# 拡張バッテリーの交換

液晶画面無し



## ■ 交換手順概要

- 拡張バッテリーのブレーカーをオフ(0)
- UPSをバイパスモードに設定
- 拡張バッテリーのケーブルを外す
- 古い拡張バッテリーを取り外す
- 新しい拡張バッテリーを設置
- 接続ケーブルを再接続
- 拡張バッテリーのブレーカーをオン(1)

## メモ

### ■ バッテリーモード中に交換しない

バッテリーモードで動作中には、拡張バッテリーを交換しないでください。バッテリー放電中にケーブルを取り外すと感電事故を引き起こす原因となります。

バッテリーはホットスワップに対応していますが、これはオフライン、バイパスモードでの話となります。

### ■ 廃棄時に拡張バッテリーを分解しない

拡張バッテリーはUPS本体と違い、バッテリーだけを取り出せるようになっていません。そのため廃棄する場合は拡張バッテリーをまるごと廃棄するよう産廃業者様へお引き渡し下さい。

### ■ 作業時の注意

バッテリー交換の際には、作業者は事故防止のため以下の準備をしてください。

1. 時計、指輪、その他の金属類は外してください。
2. 絶縁ハンドルの工具を使用してください。
3. ゴム手袋と長靴を着用してください。
4. バッテリーの上に工具や金属類を置かないでください。

# 定期的なメンテナンス



## ■ 本体のメンテナンス

UPS本体は「**前面吸気**」「**背面排気**」です。

乾いた布などでやさしく、通気口のほこりを定期的に除去してください。

拡張バッテリーはファンレスですが、埃が体積している場合は清掃してください。

## ■ おすすめの定期的なチェック項目

- バッテリーテスト
- エラーメッセージの確認

## メモ

### ■ バッテリーテスト

**「ON/MUTE」 + 「SELECT」 ボタンを同時に長押し**

テストモードは、で10秒だけバッテリーモードで動作します。このテストモードにてバッテリーの残量が確認できます。  
またバッテリーに異常があれば、エラーメッセージが表示します。

# 本体・バッテリー交換の目安



## ■ バッテリーの廃棄方法

お手数ではございますが、お住まいの市区町村の産廃処理業者様へ廃棄のご依頼をお願いします。

## ■ バッテリー廃棄について

UPS本体内蔵バッテリーはUPS本体から外してから、業者様へお渡しください。

UPSの拡張バッテリーユニットは、筐体ごと廃棄する必要があります。バッテリーだけを取り出すのは非常に危険ですので、絶対に分解しないでそのまま業者様へお渡しください。

## メモ

### • UPS本体

#### 使用開始から3～5年

特定の動作保証期間を仕様として設計はされておられません。しかし、製品保証としては3年を保証しておりますので、本体の故障があればサポートへ修理をご用命ください。

### • UPS内蔵バッテリー

#### 使用開始から2年

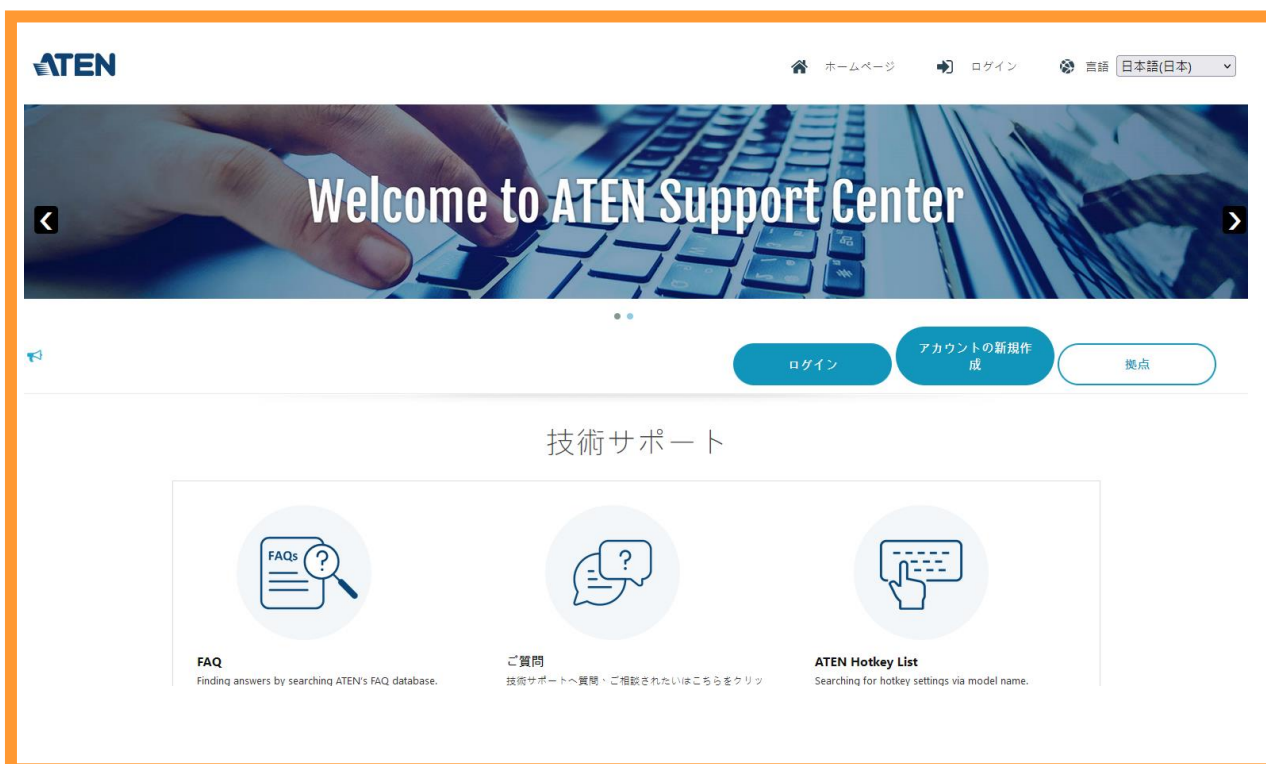
鉛バッテリーUPSとなります。環境にもよりますが1年で半分程度の時間まで機能が消耗します。経過時間によりさらに稼働時間が減りますため、定期的な交換計画をご検討ください。

### • 拡張バッテリーユニット

#### 使用開始から2年

内蔵バッテリーと同じで1年で半分程度の時間まで機能が消耗します。経過時間によりさらに稼働時間が減りますため、定期的な交換計画をご検討ください。

# 保証期間・サポート問合せ先



## ■ メールでのお問い合わせ先

セキュリティなどでeSupportがご利用できない場合は、メールにてお問い合わせください。

[support@atenjapan.jp](mailto:support@atenjapan.jp)

## ■ 電話での問合せ先

**03-5615-5811**

詳細な情報共有は電話よりもeSupportでのお問い合わせが確実かつ、最速な回答が入手できる可能性が高まります。

## メモ

### ■ 技術サポート「eSupport」のご紹介

回答までの時間が最も短くなります。  
こちらのでのお問い合わせをぜひご利用ください。

#### 【eSupportのページ】

[https://eservice.aten.com/eServiceCx/supportIndex.do?lang=ja\\_JP](https://eservice.aten.com/eServiceCx/supportIndex.do?lang=ja_JP)

### ■ 保証内容と期間を知りたい

保証内容の詳細は以下ページにございます。

<https://www.aten.com/jp/ja/supportcenter/product-warranty/product-warranty-regulations/>

### ■ 電話お問い合わせ時のご注意

電話では、サポートから詳細な状況内容の確認や、お客様にて確認作業が必要な情報を求められるなど、その場で回答が入手できない・解決できない場合があります。

その場合、調査後にメールでのやりとりを提案させていただきます。  
eSupportであれば、お客様を長時間拘束することなく、回答を提供させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

以下のような場合は、電話をご活用ください。

- 複雑な状況で、サポート担当との内容理解に差異が生じていないか確認をしたい
- メールなどで書き切れない情報を補足したい
- どのような情報を提供してよいか分からない、など

# エラーメッセージ一覧：数字



エラーメッセージ  
表示位置

## ■ アラームのパターンとお知らせ内容

**10秒**ごとに鳴る：バイパスモードで動作

**10秒**ごとに2回鳴る：商用電源側に過電流を検知

**5秒**ごとに鳴る：バッテリーモードで動作

**2秒**ごとに鳴る：バッテリー残量少 / バッテリー未接続 / 過充電 / 商用電源でL/N極が逆 / EPOが発動 / 温度以上 / 充電不可 / バッテリー異常 / バイパスモードでしきい値超過 / 商用電源周波数不安定 / バッテリー寿命 / 本体メモリ異常のいずれか (各コードと一緒に確認してください)

**1秒**ごとに鳴る：過負荷※

常に鳴る：動作異常

※ **過負荷**とは、UPSのアウトレットに繋がっている機器の消費電力がUPSの供給上限を超えていることを示しています。バッテリーで電力供給が出来なくなるため、消費電力を減らすか、UPSに接続しているPCや機器を外してUPSが供給できる電力まで減らしてください。

## メモ

これらのコードのほとんどは本体故障を意味するコードとなります。

表示	意味
01	直流変換部が起動失敗
02	直流変換部に過電流検知
03	直流変換部で電圧不足検知
11	内部インバーターの動作不良
12	給電インバーターの高電圧異常
13	給電インバーターの低電圧異常
14	インバーター出力で短絡
27	バッテリー出力が異常高電圧
28	バッテリー出力が異常低電圧
2A	バッテリー充電部にて短絡検出
41	動作温度に異常
43	過負荷異常 (アウトレットに何も接続せずこのコードが表示されたら本体故障となります)
45	バッテリー充電部異常
49	商用電源入力に過電流検出 (アウトレットに過負荷のおそれ)

# エラーメッセージ一覧：英語



エラーメッセージ  
表示位置

## ■ お知らせ内容

### 通知・警告・異常報告がメインです

多くのメッセージは、異常などを検知した時に警告するものとなります。内容によっては、稼働してはならないと判断した場合は動作をすることもございます。

### 本体故障かの確認例

UPS本体の故障か確認する方法としては、UPSに接続しているPCや機器の電源をすべて外し、UPS本体だけをコンセントに繋いで同じ警告が発報するかご確認ください。

UPSの各バッテリーをつなぐコネクタのゆるみがないかを抜き差しして確認し、UPSの初期設定に戻しても警告が発報する場合は、ATENサポートまでお問い合わせください。

## メモ

こちらは故障ではなく警告メッセージも含まれます。

表示	意味
bL	バッテリー残量少
OL	アウトレット側で過負荷
OI	商用電源側で過電流検出
NC	内蔵バッテリーが未結線 / 断線
OC	バッテリー過充電
SF	商用電源側でL極とN極が逆 またはアース接続に異常検知
EP	EPO(緊急停止モード)が発動
TP	異常温度を検知
CH	充電機能に異常検知
bF	バッテリー故障 このメッセージが表示されるとUPS主電源がOFF
bV	バイパスモードで電圧閾値超過 (※設定7を参照)
FU	商用電源側で周波数不安定
bI	バッテリー寿命 / バッテリー不良
EE	EEPROM(本体プログラム)異常

SF(LN極逆相)は警告音をブラウザ設定から停止できます。「Parameters setting」にある「Site fault detection」をDisableに設定すると止められます。

# さいごに

電源製品 > UPS > OL3000LV

型番 / 製品名 検索 比較する (0)

## 常時インバータ給電方式UPS (無停電電源装置) 3000VA OL3000LV

- トウルダブルコンバージョン方式-出力効率=0.99 (最大)。供給される電力の全てが生産的な作業に使用され、作業を最大限効率化  
\*UL 認証により、OL1500LV、OL2000LV、OL3000LV は除く
- 出力電圧レギュレーション<1% - 重要なアプリケーションに、より高い性能と効率を提供
- プログラム可能な電源管理アウトレット - ユーザーは負荷セグメントを簡単かつ独立して制御可能。この機能により停電時には、重要ではないデバイスをシャットダウンすることで、重要なデバイスのバッテリー時間を延ばすことが可能
- 緊急電源オフ機能 (EPO) - リアパネルのEPOコネクタによって、遠隔地からのUPS緊急電源オフを可能に

購入する

お問い合わせ

追加して比較する

この製品に関するFAQ

## ■ 詳細は製品マニュアルで

ATENでは製品マニュアルを会員登録不要でPDFファイルを公開しています。

最新のマニュアルを確認したい場合や、製品選定をする場合は、ぜひご活用ください。

<https://www.aten.com/jp/ja/>

## メモ

### ■ 未使用のバッテリー保管について

#### 定期的に再充電してください

予備用バッテリーを使用せずに長期間保管させた場合、バッテリーは自然放電していきます。未使用の場合、2~3ヶ月ごとに取り換えるなどで充電させてください。経年劣化を防ぐことができます。

#### バッテリーの推奨環境温度

バッテリーの寿命を延ばすには、15°Cから25°Cの温度範囲で使用することをお勧めします。

#### 機器すべての給電を保障するものではありません

ATEN製UPSは汎用品としてPC、サーバー、ネットワーク機器などの給電を目的として設計されています。しかし瞬間的な過負荷を引き起こすような機器、例えばレーザープリンターや空調、冷却、加熱装置、ドライヤーなどの家電に対しての動作保証は行っていないため、ご了承ください。

#### 他社製バッテリーの利用はサポート外

他社製のバッテリーを使用した際に発生した一切の不具合はサポート外となります。ATENより販売している純正バッテリーをご利用ください。